

## 令和4年度 第17回 教育トーク

### 1 日程

令和4年8月4日(木)

10:00~11:25 山手中学校

13:00~14:25 潮見中学校

15:15~16:40 精道中学校

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、予定より20分短縮して実施しました。

### 2 今年度のテーマ

「子どもの生きる力を育むために」

～コロナ禍で見た子どもの育ちと課題より～

### 3 参加者(人)

	学校園職員・PTA・コミスク・ 愛護委員・自治会	教育長・教育委員 事務局	合計
山手中学校	24	13	37
潮見中学校	14	14	28
精道中学校	32	14	46

### 4 主な意見

コロナ禍で、ご家庭や地域、学校での子どもたちの様子はどうでしたか？

<山手中学校区>

・子どもたちは黙食をしている。人との接触もだめ。幼稚園のリレーもタッチができない。ではどうするかということ子どもたちが考えている。子どもたちなりに色々考えている。

・話すことが難しいので、手話を利用するのはどうか。日本人が苦手なボディランゲージを身につけるチャンスでもある。

・とにかく学校が楽しい、これを乗り越えたらいいことがあると思ってほしい。

・手洗いやうがい徹底されている。

・マスクを外してもいい時代がきたときに、マスクを本当に外せるのか。

・今、子どもたちは表情を読むという機会が減っている。子どもたちの育ちも気になる。

・子どもたちは真面目だから、マスク着用なども守ろうとする。

・マスクで表情がわかりにくくなっている。だからこそ、目でしっかり伝えようとする子どもたちの姿がある。子どもたちなりに順応しようとしている。

・コロナがおさまったときに、この2年半の経験をどのように生かしていくか。マイナスだけをとりあげていくのではなく、いいところを今後生かしていきたいと考えている。



- ・子どもの生きる力を考えたときに、「食べること」をもっと大切にしてほしいと思う。

#### <潮見中学校区>

- ・幼少期からマスクをつけているので、表情から気持ちを読み取る力がどうなのか。
- ・マスクを外せないという抵抗感のある子どもがいる。
- ・コミュニケーション能力がどうなっていくのか心配である。
- ・表情や雰囲気から読み取るものがあるが、その力は育っていくのだろうか。
- ・コロナになってから「我慢」が多くなった。そこをどうフォローしていけばいいのか。
- ・デジタル社会の中でどんなふうになっていくのか。
- ・タブレットの活用が進んでいる。
- ・タブレットを使うことについては、ルールやマナーについても考えさせていく必要がある。
- ・今年、プールに入ることができて、子どもたちが生き生きとしている。大事なことはしっかりと進めていきたい。
- ・オンラインによって交流できるなど、よさを感じた。



#### <精道中学校区>

- ・コミュニケーションをとる機会や、学校でも話し合う機会が減った。
- ・喋りながら食べることができず、給食が楽しくない。
- ・学級閉鎖で学習進度・学力が気になる。
- ・顔の表情がわからない。
- ・キッズスクエアの様子を見ると、これまでと同様遊んでいる。
- ・行事がなくなったり、形を変えたりすることで、これまでのような集団活動ができていない。
- ・家庭で過ごす時間が増えた。読書する時間が増えた。
- ・学年ごとで行事をすることで良い姿が見られた。
- ・ICT利用が進んだ。

今、子どもたちに必要な力はどのような力でしょうか。どんな子どもたちに育ってほしいと思いますか？

#### <山手中学校区>

- ・学校の先生が忙し過ぎて、本当に子どもたちに向き合えるのか。生きる力を育てるとか、コロナに向き合うとか、そういう大切なところを考えることができていないのではないか。
  - ・保護者も言いつぱなしではよくない。課題を指摘するのであれば、代案を出す必要がある。
  - ・ICTの技術を活用して、例えば手紙をWeb配信にして、そこで短縮をされた時間を子どもたちに使ってほしい。教育委員会もwebなどを利用した研修を実施して、先生たちが使いながら、慣れていってほしい。
- ⇒システムをいれていきながら、作業的な部分をICTで進めることができるようになればよいと思う。  
個人情報観点などクリアしなければならない点もある。(打出教育文化センター所長)

・ICTによって、子どもたちが図書館にいなくても、本を借りることができるようになるなど、進んだ面もある。

- ・一方、アナログも大切。手先を使ったり、ものを畳んだりしながら、体で覚えていくこともある。
- ・心も体も両方を大切にしたい。
- ・学校便りを掲示板に貼ってもらえれば、学校の様子がよくわかる。
- ・タブレットは便利だが、気をつけなければならない点も多い。学校ももちろん気をつけなければならないが、保護者にもよく見守っていただき、子どもたちの安全を守ってほしい。
- ・地域力を大人がちゃんとしていくことで、地域の人に「怒られる」という経験もできる。
- ・地域ができることも増やしていくようにするとよいのではないか。

#### <潮見中学校区>

- ・子どもに信じる力をつけていきたい。
- ・子どもが支え合ったり、助け合ったりできるようになってほしい。
- ・異年齢の子どもたちと遊ぶことや、公園で遊んで多様な人と触れ合う機会としていく。
- ・読書の時間はとてもいい。図書室に司書がいて、そこに予算がかけられているのは、素晴らしい。
- ・子どもがかわいそうという入り口から入るのは違う。
- ・オンラインになった良さもある。時代が変わった中で、大人もそのあり方を考えていかなければならない。
- ・デジタルの力を身につけていかなければならないが、そこには幼稚園の頃から大切に育てている「自発性」も合わせて育てていかなければならない。
- ・前向きになる力を育ててほしい。
- ・修学旅行・自然学校がなくなったことによって「できる」という自信が失われてきてしまっている。自信を取り戻してほしい。
- ・学力とかではなく、自分のやりたいことを見つけてほしい。今は、「これやっていいのかな」と躊躇する子どももいる。
- ・その人がその人らしく育っていくことをサポートする。

#### <精道中学校区>

- ・表情がわかりにくいから自分の思っていることを言葉にできる子になってほしい。
- ・助けてほしいときに助けを呼ぶ。相手のことを考える。思いを読み取る力をつけてほしい。
- ・発信することができない孤立する子をしっかり見てほしい。そのことに気付く子になってほしい。
- ・コロナを通して、子どもたちは、大人が思っている以上に気遣いができると感じた。
- ・地域でゴミ拾いをしている。それによる地域とのつながりができている。
- ・時間に余裕ができて学校外での活動をしっかりやっている子もいる。→探究心につながる。



- ・親の方がコロナを気にしている。子どもたちの方が優しい。
- ・地域の方に感謝する気持ちをもってほしい。様々なところで繋がりがあって助けてもらっている。
- ・人とのつながりが大切である。手話を取り入れている子どもたちもいる。
- ・新しいガイドラインでの生活、やれることを頑張ることで、適応できる柔軟性が身に付く。
- ・子どもたちが主体的に今しかできないことをチャレンジするという子どもたちになってほしい。
- ・大人が子どもたちに何をできているのか。コミュニケーション力がないのは子どもなのか大人なのか。
- ・暑い中でも、少しでも外に出て、子どもたちは楽しんでいる。
- ・コロナでの生活で柔軟な適応力が身に付いた。
- ・ICTの活用について子どもたちの柔軟な発想力を身につけてほしい。

### まとめ（教育長・教育委員より）

#### 教育長

- ・子どもたちはしなやかだから、わたしたち大人が自分たちの経験を物差しとするのではいけない。
- ・コロナを通じて、今考えられることをしていくことが大切である。
- ・いろいろな方法で相手に伝えることを考えていく。
- ・表現の仕方を考える。内面を理解することが大切である。
- ・これからICTの活用や取組についても発信していきたい。



#### 上月教育委員

- ・対面であってもオンラインであっても双方向のコミュニケーションを構想し、やりとりを組織しながら、今できるコミュニケーション能力を考え育てていくことが大切である。
- ・コロナ禍であっても、子どもの中に「考える力」をつけていかなければならない。
- ・これからますます学校・保護者・地域がつながって、連携しながら子どもを見守り、育てていかなければならない時代になる。手を携えて進みたい。
- ・読書は人間の内面に訴え心を育むものであるため、新しい時代の読書も含め継続して取り組みたい。

#### 木村教育委員

- ・人と人とのコミュニケーションは、意外に「非言語的な情報」を得ながら進んでいる。
- ・子どもたちは柔軟にたくましく生きていくはずだ。ピンチをチャンスに変えていく。
- ・アイザック ニュートンは、ペストの流行で引き込まざるを得ない時に、3年間の思索を深める期間を得て、様々な発見をした。あまり心配しすぎず、子どもたちを信じたい。

#### 河盛教育委員

- ・全体としての一体感も大切だが、一層個性を大切にしていきたい。
- ・タブレットについては、ルール作りをしっかりと行ってほしい。
- ・自分の人生を自分で進める子を育ててほしい。それをみんなでサポートしながら、力を発揮できる世の中になってほしい。

#### 極楽地教育委員

- ・子どもたちは、今の大人の姿をみている。それを成長につなげてくれていると信じている。
- ・今、いろんなことが難しくなっているが、地域でも「工夫」をしていただき、プラスのパワーを与えてくれている。
- ・「ありがとう」という言葉を大切に、「有り難い」という思いをもち、「おたがいさま」「おかげさま」の心をつなげていきたい。
- ・ICTのことも含め、少しずつ、今できることをやっていくことが、子どもたちの未来につながっていくはずだと思っている。